

令和8年度「実施計画 兼 まちづくり達成状況報告書」（事務事業点検シート）

課等名：保健推進課

シート No.：22

作成日：2026. 4/30

（１）総合計画上の位置付けと事務事業の背景・目的と目標

後 期 基 本 計 画	施策の大綱	Ⅱ 保健・医療・福祉の充実	事務事業の背景・目的		事務事業の目標	
	施策の目標	2 市民が相互に支え合う福祉を進める	核家族化や外国籍妊婦の増加を背景に妊娠や出産に際して、近くに相談や手助けしてくれる人がいないというケースが年々増えてきており、支援者不足が深刻な問題になっています。 また妊産婦のメンタル面でも、不安を抱いたまま妊娠期を過ごし出産を迎えてしまうと、産後の心身の体調の不安定さや育児に影響する恐れもあります。 安心、安全に妊娠・出産・子育てに向けた環境づくりと妊産婦の孤立化を防ぐことを目的に事業を展開します。		妊産婦の不安軽減のため、妊娠届出後の妊婦面談等の妊婦包括相談支援を行い、妊娠期から出産に向けての流れや準備など先の見通しを一緒に考えていけるよう寄り添った支援を行います。 また、産前産後のサービスの充実を図り、サービスの利用促進に向けた周知に努める等、妊産婦が妊娠期から子育て期において、母子の健康管理、ハイリスクの早期発見、必要時には関係機関と連携した包括的な支援体制を強化することで安心して母子が過ごせる切れ目のない支援を実施します。	
	施策	2 少子化対策・子育て支援				
	施策内容	妊娠・出産支援の充実				
	その他、 抛法令 及び分野別計画等	母子保健法・児童福祉法 児童福祉法・常総市				
事務事業名		妊産婦健診事業				

（２）アクティビティ（活動・事業）とアウトプット（結果）

（３）インプット（投入）

No.	アクティビティ（活動・事業）		アウトプット（結果）			R 8 予算額	R 8 決算額
	活動名・事業名 （対象年）	R 8 活動・事業内容	指標名（単位）	R 8 目標値	R 9 目標値		
				R 8 実績値	R10 目標値		
①	プレパパ・ママ教室 （R8・9・10）	妊娠・出産について学ぶ教室です。希望者は夫の妊婦体験や沐浴体験をします。	のべ参加者数（人）	140	150	1,633 （会計年度任用職員報酬の内訳） 千円	千円
					160		
②	母子モによる情報発信 （R8・9・10）	育児情報や感染症情報を随時発信します。	登録者（人）	1100	1200	660 千円	千円
					1300		
③	妊婦健診 （R8・9・10）	妊婦健診の費用を16回助成します。また多胎妊婦の方には最大21回まで費用の一部を助成します。	のべ受診者数（人）	3310	3310	34,985 千円	千円
					3310		
④	産婦健診 （R8・9・10）	産後2週間、1か月の産婦健診の費用の一部を助成します。	のべ受診者数（人）	490	490	3,100 千円	千円
					490		
⑤	要支援妊婦の継続支援活動 （R8・9・10）	要支援妊婦の方について、関係機関と連携しながら継続的に支援します。	課内ケース検討会議（回）	12	12	0 千円	千円
					12		
⑥	妊婦等包括相談支援事業 （R8・9・10）	妊娠届出後の妊婦を対象に保健師が面談し、安心して妊娠期から子育て期までを過ごせるように寄り添います。	初回面談者数（人）	R8 妊娠届出数	R9 妊娠届出数	0 千円	千円
					R10 妊娠届出数		
⑦	産後ケア事業 （R8・9・10）	産後ケアを希望する産後1年未満の母が受けられます。疲労回復や育児中の不安解消を目的に実施します。	のべ利用者数（人）	55	60	2,660 千円	千円
					65		
⑧	こんにちは赤ちゃん事業 （R8・9・10）	生後4か月までに（通常は1か月～1か月半頃）保健師が訪問し赤ちゃんの発育状態や育児相談を実施します。	訪問人数（人）	R8 出生数	R9 出生数	165 千円	千円
					R10 出生数		
⑨	不妊治療費助成事業 （R8・9・10）	妊娠を望む方が保険診療とあわせて先進医療を実施するにあたり、先進医療の費用の一部を助成します。	助成人数（人）	60	60	2,407 千円	千円
					60		
⑩						千円	千円

（４）アウトカム（成果）

成果に関連する上記（２）の活動名・事業名（No.）	指標名（単位）	指標の設定理由と目標値の根拠 （目標値を達成することにより市として何が達成されるか）	R 7 現状値	R 8 目標値	R 8 実績値	目標年度 目標値
④⑧	「産後1か月以内に十分なケアを受けられた」割合	産後の不安定な時期に必要なケアを受けることで産婦が孤独を感じずに育児に前向きに取り組めます。	91.3%	95%		令和12年度
						100%
⑦	相談した産後ケア利用希望者が実際に利用につながった割合	産後の心身の疲労や育児不安を抱える産婦が産後ケア事業を利用し、いつでも相談できる体制づくりをすることで、安心して子育てができます。	100%	100%		令和12年度
						100%

（５）目的・成果の達成に向けた点検・改善

業務の振り返り	改善の余地	今後の方向性
	☐ コスト	
	☐ 活動	
	☐ 成果	
	☐ その他	